

## G7広島サミットとバイデン米大統領の長崎訪問への視座

広島テレビ顧問 三山 秀昭



G7広島サミットがいよいよ迫って来た。サミットを機にバイデン米大統領の長崎訪問も計画されている。2つの被爆地では期待値が高まっている。ただ、サミット終了後に結果をどう評価し、どう総括するか、期待値によっては結果との落差が懸念される。一部には「サミットを政治ショーの貸座敷に終わらせなくてはならない」という警鐘が鳴らされている。

2016年5月27日、オバマ米大統領は初めて被爆地・ヒロシマを訪れた。核兵器保有国の、しかも「唯一の原爆投下国」の、「現職」大統領の被爆地訪問だけに、まさに歴史的だった。私も

岸田文雄外相(当時)らと連携し、その実現に多少関与した一人として感無量だった。オバマは詩的で、哲学的で、文明的な17分間の「ヒロシマスピーチ」を行った。その内容はほとんど覚えられていなくても、「極秘」にされてきた被爆米兵12人の存在を自ら被爆者でありながら米国の遺族に伝え、追悼に尽力してきた森重昭さんと大統領の抱擁のシーンは今でも多くの人の記憶に残っているだろう。「米国が投下した原爆で米兵捕虜も死んでいた」事実を世界に知らしめた意義は実に大きかった。

シマ訪問秘録(一)文春新書、1095)を上梓した。第13章「残されたもの」でこう綴っている。「歴史的なオバマ米大統領の広島訪問は終わった。しかし、ただ、プラハ↓ベルリン↓ヒロシマと続く「スピーチコンテスト」で(終わって)は意味がない。厳しい国際情勢の中でも核軍縮が前進しないと演説倒れになり、被爆地にはやがて空虚さだけが残るだろう。(中略)これでも動き出さないと、ヒロシマは期待感が高かった分、失望も大きいだろう」

れば米国の核戦略の大転換だった。しかし、日本や韓国、NATO(北大西洋条約機構)など米国の核の傘に依存する国々からの強い反対で日の目を見ないまま「幻の宣言」に終わった。その後はアメリカに「トランプ」という異様な大統領が出現し、オバマ的なものをごとごとく覆した。気候変動のパリ協定やイランの核開発中止の合意から離脱し、ロシアとの中距離核戦力(INF)全廃条約も期限切れにしてしまった。中国、ロシア、北朝鮮による核戦力増強という国際情勢の変化もあって、核軍縮気運は一挙に萎んでいった。「政治は結果責任」であ

る以上、オバマのヒロシマ演説は「スピーチコンテスト」に終わっていると言われても仕方ないのが結果的には冷徹な現実だ。

あの時はG7伊勢志摩サミットの後、オバマが広島を訪れた。7年後、今度は広島がサミット開催地である。広島は岸田首相の地元であり、盛り上がりは尋常ではない。県、市、経済界からなる「G7広島サミット県民会議」が結成され、「地元の食材や酒を使ってほしい」「サミット後のインバウンド観光に期待する」「経済効果は〇〇億円」など期待が膨らんでいる。

1975年、主要国首脳会議(サミット)はフランス・パリ郊外の古城ランブイエで初めて開催された。73年の第4次中東戦争に端を発し↓中東諸国による原油の輸出規制↓エネルギー危機↓世界的インフレの中で、

経済を中心に国際秩序を取り戻そうとフランスのジスカールデスタン大統領が提唱した。ロシアによるウクライナ侵略↓エネルギー危機↓世界的なインフレと、今回も極めて相似形の様相の中でサミットが開催される。

サミットは今回で49回を数える(2020年のアメリカ開催はコロナで中止)。半世紀近いサミットの歴史上、「核」と密接不可分の地で開かれるのは初めてであることを確認したい。さらには米英仏の核保有国に加え、核の傘にあるNATO加盟の独、伊、カナダの首脳が被爆地に一堂に揃うことの意味も再認識したい。

広島では「3点セット」が当然視されている。①7か国とEU首脳に原爆慰霊碑に献花してもらおうのは最低限②その上で原爆資料館で被爆遺品を見て、核兵器が投下されるとどんな惨

状を招くかという「被爆の実相」を感じてもらおう③被爆者の被爆証言を直接聴いてもらう。①の3点だ。何とか②までは実行されそうだが、③に関しては岸田首相が1月中旬の欧米歴訪で同行者が各国に理解を求めた。

岸田首相は広島開催を決断した時、「ロシアのウクライナ侵略の中で広島ほど平和へのコミットメント(関与)を示すのに相応しい開催地はない」と力説した。ただ、最近「広島サミットで核軍縮の気運を高めるメッセージを発信したい」と慎重な言い回しに留め、「77年間、核兵器が使用されていない歴史をないがしろにすることは許されないこと」を世界に発信したい」とある意味で当然過ぎる発言を繰り返している。もちろん、「G7広島宣言」をいかに高らかに謳っても、それはロシアや中国、北朝鮮を拘束するもので

はない。それが「核軍縮の気運を高める」としか言えない冷徹な国際情勢でもあるのだから。ただ、せめてロシア、中国、北朝鮮、それに核開発を進めつつあるイランに対して「牽制」以上のプレッシャーをかけるアピールにしてほしいものだ。また、世界ではロシアのウクライナ侵略には批判的でも、対口制裁には加わらないどころかロシアからエネルギーや食糧を輸入しようとしている国が開発途上国に多い。その意味で、サミットにゲスト招待するG20の議長国であるインドを引き寄せ、開発途上国をどこまで引き付けられる「宣言」になるかが国際政治の上では結果を評価する分岐点になるだろう。

バイデン米大統領の長崎訪問はエマニエル駐日米大使が昨年来、ホワイトハウスに働きかけて来た。私も長崎の要路や教会

**ビジネスラウンジ もみじ**

提携クレジットカード会社の  
会員は利用料無料

ドリンクコーナー、パソコン、テレビ  
コピー機、マッサージチェアなどが  
ご利用いただけます。

場所／国内線2階出発ロビー  
(スプリングジャパンカウンター横)

営業時間／7:00～21:15  
TEL／0848-86-8151(空港案内所)

空港駐車場、第1・第2駐車場 **入庫から30分間無料!!**

**空港駐車場 第1・第2駐車場 正広パーキング**

広島空港内対象店舗のお食事・お買い物3,000円以上で  
**入庫から最大2時間無料!!**

※詳しくは館内ポスター、対象店舗POPをご覧ください。

広島国際空港株式会社  
広島空港ホームページ <https://www.hij.airport.jp>  
広島空港Facebook <https://www.facebook.com/hiroshima.airport>  
広島空港Instagram <https://www.instagram.com/hiroshima.airport>

国民健康保険に加入の皆さんへ

国民健康保険料(税)の納付は  
**口座振替**  
をご利用ください

納め忘れがないので「**確実**」「**安心**」  
窓口納付の手間が省けて「**便利**」

国保を支えているのは、皆さんの保険料(税)です

「国民健康保険」に関するお問い合わせは、お住まいの市町またはご加入の国保組合まで

広島県内の各市町では、  
口座振替を促進するための  
キャンペーンを実施中!

詳しくはホームページをご覧ください  
広島県 国保口座振替 検索

広島県国民健康保険  
イメージキャラクター  
コバエ

広島県市町国民健康保険・国民健康保険組合・広島県国民健康保険団体連合会



**G7広島サミットへの祝意**  
フーテン「核の恫喝」の中で  
広島県の定点観測ジャーナリストが徹底解説

「ナガサキを最後の被爆地としなければならぬ」とのメッセージを世界に発信してもらいたい。それも美しい響きのスピーチで終わらせることなく、中身と行動を伴う「ナガサキアピール」にして欲しい。それは何よりも核

の恫喝を続けるロシアのプーチン大統領へのプレッシャーになるだろう。私は昨年暮れに「世界のリーダー185人 ヒロシマ、ナガサキで発した言葉」という一冊を上梓した。戦後、二つの被爆地を訪れた世界のリーダー、著名人約3000人の中から185人を抽出し、彼ら、彼女らの被爆地での「言葉」を収集、検証、解説したものだ。もちろん、G7首脳が広島に集うことを意識し、過去のリーダーたちの「被爆地での誓い」を思い起こすことによつて広島サミットへの「祝意」にしてほしいとの狙いがあった。その中の一人、カラヤンと並ぶ20世紀の世界的指揮者バスターラインが1985年広島を訪れた際、原爆資料館の芳名録に残した鋭い一言を引用する。「すでに言葉だけが多すぎる。行動が不足しているのに」。

「広島じゃけん中国じゃないけん」(南々社)「フランチにエースなコラムを」(同)、「世界のリーダー185人 ヒロシマ、ナガサキで発した言葉」(同)など。共著に「日本と世界これからどうなる」「十年後の衝撃」(ともにHJP研究所)など。論壇誌への寄稿、講演多い。月刊誌「リベラルタイム」に「フランチにコラムを」を連載、ブログ「徒然エッセイ」(<http://pict-dd.cocolog-nifty.com/tasurene/>)は70回を数える。

関係者、広島市との連携を呼びかけた一人として実現すれば歓迎したい。バイデン大統領は「F・ケネディ以来というカトリックの米大統領だ(他はプロテスタント)。その意味で歴史的にカトリック教徒が多い長崎への訪問は「あり得るシナリオ」だった。大統領の日程としてはサミット後にはオーストラリアでのクワッド(米、日、豪、インド)の首脳会議が控えており、途中、長崎へ立ち寄ることは十分可能だ。また岸田首相もバイデン大統領がもう一つの被爆地

の長崎を訪れてくれれば、「核軍縮の機運を高める」絶好の政治イベントとなり、当然、同行する考えだ。ただ、ソ連のゴルバチョフ大統領が1991年に長崎を訪れた際、原爆慰霊碑には献花し、ロシア人墓地には参拝したが原爆資料館には足を運ばなかった。バイデン大統領には慰霊碑への献花は当然として、カトリックの大統領として浦上天主堂でミサを受けるだけでなく、「ナガサキを最後の被爆地としなければならぬ」とのメッセージを世界に発信してもらいたい。それも美しい響きのスピーチで終わらせることなく、中身と行動を伴う「ナガサキアピール」にして欲しい。それは何よりも核

の恫喝を続けるロシアのプーチン大統領へのプレッシャーになるだろう。私は昨年暮れに「世界のリーダー185人 ヒロシマ、ナガサキで発した言葉」という一冊を上梓した。戦後、二つの被爆地を訪れた世界のリーダー、著名人約3000人の中から185人を抽出し、彼ら、彼女らの被爆地での「言葉」を収集、検証、解説したものだ。もちろん、G7首脳が広島に集うことを意識し、過去のリーダーたちの「被爆地での誓い」を思い起こすことによつて広島サミットへの「祝意」にしてほしいとの狙いがあった。その中の一人、カラヤンと並ぶ20世紀の世界的指揮者バスターラインが1985年広島を訪れた際、原爆資料館の芳名録に残した鋭い一言を引用する。「すでに言葉だけが多すぎる。行動が不足しているのに」。

**略歴**  
三山 秀昭(みやま ひであき)  
1946年富山県生まれ。早稲田大学卒業。読売新聞社入社、千葉支局、政治部、ワシントン特派員。秘書部長、政治部長、秘書役などを経て2011年広島テレビ社長、会長、最高顧問。政府税制調査会委員。  
2016年のオバマ米大統領の広島訪問に先立ち、岸田文雄外相(当時)、湯崎英彦県知事、松井一實広島市長らと連携、被爆者、市民、広島のを要路から集めた「オバマへの手紙」1472通を携え、14、15年とホワイトハウスを訪問。大統領の広島訪問実現に尽力した。  
著書に「オバマへの手紙」(文春新書、1095)、「世界最古の日本国憲法」(潮書房光人社)  
「広島じゃけん中国じゃないけん」(南々社)「フランチにエースなコラムを」(同)、「世界のリーダー185人 ヒロシマ、ナガサキで発した言葉」(同)など。共著に「日本と世界これからどうなる」「十年後の衝撃」(ともにHJP研究所)など。論壇誌への寄稿、講演多い。  
月刊誌「リベラルタイム」に「フランチにコラムを」を連載、ブログ「徒然エッセイ」(<http://pict-dd.cocolog-nifty.com/tasurene/>)は70回を数える。